

輪米船安着 過日來露艦に拿捕せられたりとの噂高かりし英船オー克蘭ド號(四月三十日參看)は此日無事門司に到着せり

輪米船遭難 蘭貢米六萬袋を搭載して本邦に向ひたる英國汽船リンコルンシャイア號は航行の途中露艦隊に出逢ひ拿捕の難に遇はんとしたるより急に航路を轉じ全速力にて航走したる結果石炭に不足を生じ處々にて補充したるが爲め豫定よりは十二三日後れて此日午後五時横濱に着したり

水雷警戒 昨今澎海灣に機械水雷の浮流するもの多く夜間の航海は危険なるを以て中止することゝなれり

三日

靖國神社 今回の戦役に従事し本年一月迄に戦死したる海軍大佐佐伯閣以下海軍々人千八百八十七名及陸軍少將山本信行以下陸軍々人二萬八千九百九十九名靖國神社に合祀仰出さる此日より五日まで三日間臨時大祭舉行せらる

佛艦行動 佛國絶東艦隊司令長官ベール中將はモントカルムに坐乘しアロン灣(東京内海防港の北東にあり)に艦隊を集合し司令官ジョンキエル少將はギシエンに坐乘し露艦隊の碇泊中なるホンコーへ灣に向け西貢を發せりとの報あり

輪米船安着 過日來露國に拿捕せられたりとの噂高かりし英船キシ(四月三十日參看)は此日午後四時横濱に安着せり

露國買船 露國は蘭領バタバヤに差遣せんが爲め數多の汽船を買入れ居れりとの報あり

露探嫌疑船 此日の上海發電に依れば汽船武昌號(本月一日參看)はベルリン、ロカール、アンツアイゲル特派員が名義上露國艦隊に會同し海戦を観るの目的を以て備入れたるものにして備實英國デーリー、テレグラフ通信員たりしベンネット、バンレカー汽船サムソン號を備入れたると同様の方法に依り露國の爲めに我艦隊の行動を偵察するものと信ぜらる

四日

捕獲檢定 英船イースビー、アツペー號(二月廿七日參看)及同ヴェナス(三月四日參看)同アツプロタイト(三月六日參看)の三隻は此日横須賀審檢所に於て船舶載貨共捕獲と檢定せらる

安南事件 佛國外相は我公使の再抗議に對し沿崇監視の爲め司令官ジョン、キエール少將を派し露國軍艦を佛國領水内に入らしめざるの手續を取れりと言明せり

五日

北浦露艦隊 露國水雷艇四隻北海道持田沖に現はれ帆船八幡丸(乗組員十一名)に停船を命じ船長を抑留し甲板に石油を撒布し二回の發砲を加へ火災を起さしめ北方に走れり乗組十名は無事小石谷に歸着せり

北浦露艦隊 右に關する敵側公報中に此日後志沖に於て日本帆船一隻を燒失せる外更に一隻の日本帆船を日本沿岸より十五里沖に於て拿捕し其乗員九名を收容し捕獲船は浦鹽に送致したりとあり

露國艦隊 第三艦隊は本日朝新嘉坡を通過せり其艦種及び隻數左の如しとの報あり 戰艦ニコライ一世巡洋艦ウラジミール、モノマフ海防艦アドミラル、ウシヤークフ同、ア

ドミラル、セニヤビン同、ゲネラル、アドミラル、アブラキシン運送船ソセニヤ同、グラフィス
トロゴノフ同、クロニア同、スヴェーリ同、オリオン同、ビームキルク同、シムブリア

六日

有

栖川宮 兩殿下ボート、セイドに御着あらせられたり

七日

有

栖川宮 兩殿下伊國ネーブルス港に御着あらせられたり

佛艦行動

佛國絶東艦隊司令長官の旗艦以下五隻安南沿岸に游弋すとの報あり

安南事件

我が駐佛公使は外相デルカツセの言明(日本月四日)あるにも拘はらず露國艦隊

は現にホンコーへに在りて該港を利用しあるを詰りしが外相は之に對して『カムラン

灣事件以來佛國政府は印度支那總督に訓令するに交戰國艦船を佛國領水内に入らし

むべからざる旨を以てし露國第三艦隊接近の報に接するや再び訓令を發し極力之れ

を監視し領水内に侵入せしめざる手段を盡さしむると同時に露國政府にも其旨通知

し置きたれば最早露艦は一隻も佛國領水内に在らざる筈なり』と回答せりと傳ふ

安南事件

佛國中立違反の非行に對し我が實業界も頗る憤慨し東京商業會議所に於

ては佛國商業取引拒絶の議起り佛國商業會議所に移檄し同一のボーイ、コットに出で

んことを希望せり

露探嫌疑船 汽船芝罘號は露國に買収せられたりと信するものなりしが此日同號は米

領グアム島(マリアネ群島中の最大島)に向け上海を出發せしとの報あり

八日

有

栖川宮 兩殿下伊國羅馬御着六日間御滞在伊國皇帝より勳章御親受あらせられた

購船命名

汽船サルス號は猿橋丸と命名せられたり

發電拒絶

在西貢英國新聞通信員の佛國領水内に於ける露國艦隊の給養及び行動に

關する電報は其筋より發電方を拒絶せられたりとの報あり

安南事件

英國外相ランスタウン卿は佛國の中立違反に關し佛國に對し強硬なる照

會を爲し日本の言へる所果して事實たること確められ而して日本より英國に同盟義

務の遂行を求め來らば英國は之れに應ずる外に採るべき道なしと云へりとのことな

り

安南事件

「ロンドン、タイムズ」曰く吾人は佛國政府及佛國人民が形勢の頗る危殆なる

を覺知するに至るべきを誠實に信任す是れ世界の平和に關係あるものなり日本は戰

争を日露兩國間に局限するの希望を示せり然れども凡そ事物には限りのあるものな

り此限りを超えて迄も日本が局限すべしとは豫期せられずと

安南事件

「スタンダード」新聞は本件に關し其社説に於て日本の論旨の正當なるを説

明すると同時に佛國を交戰國として處置し公然戰爭に入らしむるは日本の利益にあ

らずとの理由を以て日本に慫慂するに慎重を持すべきを以てせり

嫌疑船差押

露國は日本艦隊の行動を偵察し又自國艦隊に石炭を供給せんが爲め昨今

上海に於て中立國船舶を買収し船名及國籍を變更し出港せしめんとする形跡あるを

以て我總領事は抗議の末此日武昌號臺灣號、シンヤン號、マシルグ號及びワンパオ號の

五隻は嫌疑船として上海出港を停止せられたり
 露國船材 獨逸リユーベックに於て警察官は若干の解體船材を露國に輸出する水雷艇用の材料なりと認め之を沒收せしが専門家より成る委員調査の末右材料は水雷艇用のものにあらず又何等軍用の目的に供すべきものにあらざるを發見し遂に其差押を解除したり

九日

拿捕船改名 去る二月廿三日藥取沖に於て拿捕せられたる獨船「セベルス」號は藥取丸と改名せられたり

露國艦隊 此日午後二時第二第三艦隊聯合せしことは露國司令長官の廳下一般に與へたる訓令文に由て知られたり(本誌二頁參看)

安南事件 英國首相は此日下院に於て駐英佛國公使カムボムの提出せる通牒を述べたり其文中に露國艦隊は一旦カムラン灣を引揚げて後ホンコーへ灣に入りたるも領海内にあらざりしと又露國司令長官は五月三日を以て去るべき旨約したりとの語あり尙ほ首相は露國官憲がカムラン灣に於て露國艦隊に重要な助力を與へたりとの説あれども英國政府の了解する所にては同灣陸岸には佛國人二名あるのみにて孰れも官吏にあらず佛國の土地租借者たるに過ぎずと言へり

安南事件 ホンコーへ灣事件の爲め再燃せる佛國中立問題は日英諸國新聞の論調殊に五月八日の「タイムス」嚴評の爲めに一層重大となり佛國に於ても之に對し種々の論評を加ふるに至れり其大要左の如し

此日「ル、タン」新聞は佛國の態度を辯護したる末中立規則の英佛相異なる理由を擧げ若し佛國にして英國の例に倣はば一朝戰時に際し不利の地位に立つの恐ありと爲し又「ル、ジュールナル」新聞は英人の此の脅迫を冷視し縱し露艦にして久しくカムラン灣に滞留し且つ諸物資を滿載したりとするも佛國中立規則は之れが爲め侵害せられたるものにあらざるに然るに日本が今遽かに之れを非難するは英國との同盟に依り何物をか獲んと欲するにあらずやと疑ひ又「ル、マタン」も佛國政府の態度を辯護し佛國が其同盟國たる露西亞に對しても亦親交國たる日本に對しても今回其の中立義務を缺きたりと云ふが如きは苟も責任あるものゝ善意を以て唱道する能はざる所なりと云へり親露派及國民派の諸新聞は前記各新聞よりは一層強く佛露兩國の態度を辯護し就中「エコー」トパリ「新聞」は日本の態度は強ひて争端を求めんとするものなりと云へり親日派及社會諸新聞は日本の要求を正當となし露國司令官の行爲を不法と斷じ且つ佛國政府の本件に對する處置の緩慢を批難せり然れども本問題の友誼的解決は各黨派各新聞の一致して希望する所なり

クラード中佐 此日のハッロフ發電にクラード中佐は黑龍江及其支流就中松花江に於て日本の來襲に對する防禦を集中せんが爲め當地方に來るべしと(四月十五日參看)

十日 捕獲檢定 獨船「パロス」(二月十日參看)は此日横須賀審檢所に於て船舶載貨共捕獲と檢定せらる

ブグワン事件 退職佛國歩兵大尉勳三等ブグワン(六十歳)英人ストレンジ(二十二歳)及本邦

人牧宏の三名は重大事件嫌疑者として捕縛せられたり

露艦捕船 此日遠洋漁業船北征丸は北緯四十一度三十七分東經百二十五度の位置に

於て「ロシヤ」グロンボイの爲めに拿捕せられ乗組三十一名は浦鹽に送られたりと

露國內地 此日の露國官報は彼得大帝運河シエクスナ河烏蘇里江及黑龍江の解氷期

水路開通期 及び航行開始期を發表したり

露艦進水 此日露京新海軍造船廠に於て砲艦「ギリヤグ」の起工式及ガレールヌイ島

及起工式 造船廠に於て砲艦「ヒウエネチ」の進水式及戰艦「アンドレベルウオズワヌイ」の起工式

(英國新聞には進水式とあり)行はれたり

安南事件 去る七月佛國外相は我駐佛公使に對する言質あるにも拘はらず露國艦隊

は依然ホンコーへ灣内外に碇泊し此處より偵察を發し中立國船舶を臨檢し増投艦隊

及運送船を待受け石炭及物資を積込み陸岸と自在に交通し其他同灣を恰も自國の假

根據地或は集合地點同様に利用しつゝあるの事實は此の附近通航の汽船其他諸向の

報道に依つて知られ我國論沸騰し佛國殖民地官憲に於て放任の形跡を指摘し其中立

勵行を嚴求せり

駐米露使 カシニー伯西班牙駐劄公使に轉任を命ぜられローゼン男其の後を襲へり

との報あり

十二日 汽船觸雷 日本郵船會社雇英國汽船「ソブラレンス」號(登簿噸數一三三噸)は牛莊より大豆を満載

し神戸に復航の途中旅順沖合約八里の處にて此日午前一時半機械水雷に罹り轟沈し

行衛不明者乗組員及船客合計三十二名なり

安南事件 佛國外相は此日我駐佛公使との會見に於て佛國政府は印度支那官憲に中

立厲行を累次訓令したれば同官憲が露國艦隊の行動を曲庇する如きことあるべき筈

なしと辯護し去る九日朝以來ホンコーへ灣内並に其前面には一隻の露國艦船をも見

受けずとの公報に接したりと云へり

露探嫌疑船 武昌號(本月一日、三)は「ベルリン、ロカール、アンツアイゲル」通信員クリーゲル、

スタインを乗せ「セシリ」と變名し獨逸國旗を翻へし香港に向け上海を出發せり(後ち

青島に到りしものと知るべし)

臺灣號事件 臺灣號上海出港停止(本月八)に關し上海道臺及日獨領事間に種々交渉往復

を重ねつゝあり其搭載せる石炭は決して波羅的艦隊に供給するものにあらざるが故

に該船々主は出港差止に就ては之が損害を要求すべしと言ひ上海道臺を脅喝せり

十三日 有栖川宮 兩殿下には本日巴里に向け羅馬を御出發あらせらる此日獨逸の「ケルニツ

シエツアイツング」新聞は兩殿下の獨逸へ御來臨に付説を爲して曰く日獨兩皇室間の

深厚は兩國間親善關係の基礎なり日本の對東亞門戶開放は獨逸の喜ぶ所にして其以

上に何等望む所なしと

驅逐艦初霜 進水式横須賀に於て舉行せらる(本年二月十五日)

戒嚴宣告 臺灣全島(澎湖列島を除く)及其沿海は臨戰地境と定め戒嚴令施行を宣告せらる

三笠廢艦說 佛國新聞「エコード、パリー」の通信員は此日午後一時十分東京發電として歐洲各新聞に報するに三笠は最近の航海に大損害を蒙り戦闘力を失へり」と此電報は直ちにロゼストウエンスキー提督の許に達したるに相違なければ彼は最早三笠は戦闘に參與し得べからざるものと信ぜしとの説あり

「カーライル」號 マニラ碇泊中日本漁船に襲撃の罪を誣ひたる英國汽船「カーライル」號(本年三月三日)は去る四月中旬マニラを出港せんとせしも波羅的艦隊に供給すべき彈藥を搭載せるを以て水夫は命に服せず勞働を拒絶せしが終に四月二十一日ポートサイドに向ふと稱して出港し西貢に到着し目下露艦隊に彈藥を引渡中なりとの報あり

海州口事件 「グロモボイ」副長に任せられたりとの報あり(本月九日) 上陸せしめたるより獨逸海州口占領の説一時世に喧傳せられしが右は單に海州灣を測量したるに過ぎざること後に知られたり

十四日 有栖川宮 兩殿下巴里に御着あらせられたり 伏見若宮 博恭王殿下には曩に韓廷より祝捷大使として義陽君李載覺殿下を特派せられたる(三月十七日)に對し御答禮として韓國差遣の御沙汰を蒙らせられ本日御出發あらせられたり

露國艦隊 此日ホンコーへ灣を出て東方に向ひたりとのこと此月十九日發刊の「シツペン」ガゼット「西貢特電」に由て知られたり

十五日 戰艦「スラッ」 此日より游弋すべき命を受けたりと「コトリン」新聞は報せり

露國艦隊 此日午後四時ヴァレラ岬の沖合四十哩に於て約四十二隻より成れる露國艦隊を見たりと十七日夕新嘉坡着の獨逸汽船は報せり

安南事件 此日佛國絶東洋艦隊司令官ジョンキエール少將發同日午後佛國政府に着せる公報に依れば佛國軍艦は本月十三日より十四日に亘り安南海岸を巡視したるに南はセントジャツク岬より北ハツラオン(北緯十六度に位置する安南の一港)に至る間に於て苟も軍艦の入港し得る諸港灣中最北に位するジュウワヌデー灣(ホンコーへの北約五十哩)までには露國軍艦並に船舶一隻も居らざることを確めたり

クラード中佐 本月初旬黒龍江艦隊指揮官に任せられ後ち又「グロモボイ」副長に任せられしも海軍服務紀律に違反せしを以て此日其職を免ぜられたりとの報あり(本月九日及十三日參着)

十六日 英船拿捕 英國汽船「リンドル」(登簿一、七六四噸)は燕麥を積み東航中濟州島附近に於て拿捕せられ審檢の末神戸に向つて航行中なること明白となりたるを以て解放せらる 佛船拿捕 佛國汽船「廣南」(登簿七噸)は無載貨にてマニラに向ひ航行中馬公港外に於て拿捕せらる 輪炭禁止 帝國政府は戰時の行政處分として當分の間西貢方面に對する石炭の輸出を一切停止す

露國艦隊 此日午前二時北緯十三度三十九分東經百十一度三十八分の海上に於て約四十隻の艦隊北上するに逢へりと十八日朝新嘉坡着の英國汽船「ホガウワン」號は報せり
十七日 有栖川宮 殿下佛國大統領に對し公式の御訪問あり同日大統領答禮として御旅館に來訪ありたり
佛國艦隊司令官ジョンキエール少將は州洋艦「ギンセン」にて西貢に歸港せり

輸炭制限 上海より他の中立港に英炭を積み出すには保證金を要し之を納めざる炭船には出港免狀を與へざることゝなれり

露國第四艦隊急準備 此日の「ノヴォオエ、ウレミヤ」は報じて曰く第四艦隊各艦長は萬障を排し必らず六月十四日までに航準備を完結すべき旨の命令出たりと(本年二月二十八日參看)

十八日 露探嫌疑船 「セシリ」號(元武昌號)は石炭及糧食を積入れ此日香港に向け青島を出發せしが該船は同所に於て獨逸海軍將校を乗組ましめ又無線電信機を据付けたりと(本日參看)
ドリレフ中將 極東に於ける海軍指揮權を執るが爲め浦鹽に向ひ出發するに先ち本日露帝に謁見せりと(本日參看)の報あり

十九日

伏見若宮 博恭王殿下には本日午後七時三十分京城御著あらせられたり(本月十四日參看)
敵艦一部 西貢より巴里に達したる電報に曰く露艦隊の補助巡洋艦若干隻は此十九日南安沿岸に歸り來りバンホン灣ボート、ダヨット(本月二日參看)の領海外に碇泊したり右

は運炭船を搜索し本隊まで護送し來るべき命令を受け居るものならんと言ひ或は本隊が浦鹽に向ひ突進するを隠蔽するの策ならんと云はれたり

露艦捕船 英船「オールドハミヤ」は石油を積込み約克より香港に向ふ途中本日未明バタン海峡に於て露艦に捕はれ船長機關長外二名は巡洋艦「オレグ」に收容せられたり

露艦檢船 英船「オスバ」號は本日バシー海峡バタン島附近にて艦首を太平洋方面に向け航行の露艦隊に出會し臨檢せられたりと(本日參看)の報あり

露艦檢船 三井物産會社雇入の諸船「オスカルセコンド」號はマニラより口の津へ航行の途中本日午前九時バタン島附近東經百二十三度北緯二十度の地に於て波羅的艦隊に出逢し臨檢せられたり露國士官の談によれば臺灣の東方を経て對馬海峡に向け航行すへしと

觀戰事件 本日佛紙「ル、マタン」は危險なる日本と題する論說中に我前の公使館附武官ブグアン少佐を間諜として拘留(本月十日參看)せし如きは日本が佛國を中傷せんとして却て自から危險を醸すに至るべしと言ひ又露國駐在佛國公使館附武官ド、キベルウキエム及獨逸の同僚ギルゲンハイムの旅順刺殺(本年三月三日參看)の如き現に日本は此二將校の旅行用衣囊にありし書類を所有するにも拘はらず兩國に對し彼等の行方不明に付ては全く知らざる如く裝ひ其實を言はざるに兩國の等しく認むる所なり彼等の悲しむべき

二三の遺物は芝罘に漂着し既に吾人の手に歸せりと云へり
在浦外商 總て退去を命ぜられたり
二十日

「カルカス」事件 露國高等捕獲審檢所は浦鹽艦隊が昨年七月廿九日浦鹽に歸航中拿捕引致したる英國汽船「カルカス」事件(同船は米國華盛頓州ビユウ、ジェット、サウインド港より日本及香港に仕向けたるもの)に對し「棉花は沒收し機械類は持主に就て其送先を確め本船及他の積荷は解放し同船の拿捕は正當なり」と檢定せり(此判決中注目すべき點は棉花を戰時禁制品と宣告したるにあり)

二十一日

露船南航

馬尼刺より香港に入港せる英國汽船「エンサン」號の船長の談に曰く本船は二十一日東經百十六度八分北緯二十度の海面にて一汽船の無載貨にてバシー海峽より西南に航行するを明認し又同日午後四時東經百十六度四十五分北緯二十度四十分の海面にて二隻の汽船右と同方面より前同様の針路を取れるを見たり

露船南歸 本日西貢を出發したる佛國郵船は露國義勇艦隊汽船「キエフ」號及其他の運送船數十隻を同港内に見たりと云ふ

二十二日

敵艦隊載炭地點 本日の倫敦發電に據れば露國艦隊司令長官は比律賓領海を石炭積込地點に豫定し置きたるものと信ぜらる目下艦隊は呂宋沿岸に於て石炭積入中なるが如し

韓海禁漁

韓海鎮海灣及巨濟島南端東方約六海里沖合より北釜山に至る海面に於て夜間漁業禁止の令出づ

ステツセル辯護 此日の露都發信によれば旅順開城調査委員(四月十三日參看)は其業務の大半を終りステツセル將軍の提出したる證據書類調査の結果該要塞は開戰當時に於ては幾んど防禦力なく物資も軍用金も亦充分ならざることを示すものゝ如しと

露國々防會議設置

此日の露都發信に陸海軍々軍令政の敏活及統一を計らんが爲め國防會議の設置せらるべしとの説は久しき以前より傳へられたるが其第一着として皇帝はニコラス、ニコライウイツチ太公を總裁とせる特別準備委員任命の詔勅を發したり右は曩きに傳へられたるニコラス太公滿洲軍總司令官と爲るの説を明かに打消すものなりと

二十三日

安南沿岸無艦影 在香港佛國領事は本月發刊の各新聞紙上に發表して曰く「波羅的艦隊は再び安南の沿岸に戻りしが如く過日來頻りに傳へらるれども右は全く無根なり本日接し手せしジョンキエール司令官の公表に依れば印度支那沿岸の各港は悉く實地巡視せられしに露艦は一隻も見えざりしと

安南沿岸無艦影 此日朝盤谷より香港に入港せる汽船「アナムバ」號の報する所に據れば安南沿岸通過中更に露艦の踪跡を認めずと

露國艦隊

此日正午其筋より露國第二艦隊對馬海峽に現はれたりと通知あり門司港務部は船舶の西航を禁止せしが右は虚報と判明し解禁せられたり

二十四日

有栖川宮

兩殿下は此日佛國大統領ルーベール氏より午餐の饗應を受けさせられ内閣

議長ルーベール氏外務卿デルカッセル氏及本野公使等之に陪せり

旅順沈没船 「アンガラ」(總噸數七、〇二〇) 及「ガザン」(總噸數六、〇九六) の引揚終了せり

露探嫌疑船 「セシリ」號は此日香港に着せり船内の乗組員は獨逸人と稱するも甚だ疑

はし或は數多の露國士官ありと云ひ或は波艦隊に雇はれし獨逸の砲術士官乗組居れ

りと云ふも絶對的に他人の船内に入るを許さざれば確め難し該船體は灰色に塗換へ

居れりとの報あり(本月十八日參看)

ビリレフ中將 獨立の指揮權を有する露國太平洋艦隊司令長官に補せられたりとの報あ

り(本月十八日參看)

敵帥抱負 ロヂエストウエンスキーは二十隻の軍艦にして浦鹽に到着するを得ば日

本の海上交通は著しき危険に陥るべきを豫期し居れりとの説あり

石炭注文 英國サウス、ウエールスは莫大なる浦鹽行石炭の注文を受けたりと云ふ

棉花問題 露都高等捕獲審檢所は棉花を以て戦時禁制品なりと判決したるを以て露

國官憲は同地より日本に向ふ棉花の輸出を止めんと試みつゝあり爲めに棉花市場は

取引少しとの報あり(本月二十日參看)

二十五日 京釜鐵道 開通式此日午前十時舉行博恭王及李載覺兩殿下御臨場あらせられたり

(本月十九日參看)

敵艦入滬 假裝巡洋艦「リオン」(元「スモーレンスク」)同「ドニエーブル」(元「ペテルスブルグ」)運

送船「ウラジミール」同「ワローネージ」同「リウニア」同「ヤロスラーウリ」同「クロニヤ」雨水貯蓄

船「メテオール」合計八隻此日午後二時半頃吳淞沖に現はれ其假裝巡洋艦二隻は北東に

向ひ去り残りたる六隻は午後八時頃吳淞に入港せり

露國艦隊 バタン海峡より臺灣の東方を経て上海沖に出で前述の如く劣等の運送船

六隻を上海に残し對馬海峡に向ひたり

ビリレフ中將 極東に向ひ出發したり(本月二十日參看)

二十六日 露探嫌疑船 「セシリ」號は澳門に於て糧食積込中なりしが此日同地出發馬尼刺に向ひ

たりとの報あり(本月廿四日參看)

英船抑留 「ビーオー」會社汽船「ベラーモ」號は日本行禁制品を搭載せりとの故を以て上

海稅關の抑留する所となりしが翌日開放せられたり

二十七日(露帝戴冠式第七年目祝日) 敵艦隊見ゆとの警報此日午前五時南方の一哨艦信濃丸より發信し大本營に轉電せら

るゝや海軍大臣及軍令長は直ちに連名にて東郷大將に「聯合艦隊の絶大なる成功を祈

る」と發電せられたり

日本海々戰 此日午後より翌日午後に亘り日本海に於て大海戦起り敵の第二第三艦隊

は遂に幾んど撃滅せられたり

戰場に顯はれたる敵艦船

戰艦八隻

内六隻擊沈「クニヤージ、スワロフ」「アレキサンドル三世」「ボロヂノ」「オスラビヤ」
「シソイベリキー」「ナワリン」

巡洋艦九隻

内四隻擊沈「アドミラル、ナヒモフ」「ドミトリ、ドンスコイ」「ウラジミル、モノマ
フ」「スウエトラーナ」

三隻馬尼刺へ逃走抑留「アウロラ」「オレグ」「ゼムチユーグ」

一隻浦鹽斯德へ逃入「アルマーズ」

一隻ウラヂミール灣へ逃走攔岸破壊「イズムルード」

海防艦三隻

内二隻捕獲「アブラキシシ」「セニヤウイン」

一隻擊沈「ウシヤークフ」

驅逐艦九隻

内一隻捕獲「ビエードウイ」

四隻擊沈「アイヌイ」「アイストルイ」「グロムスキー」「ベズブレレーチエヌイ」

一隻上海へ逃入武装解除「ボードルイ」

一隻上海へ逃遁の途損害の結果沈没「プレスチャースチー」

二隻浦鹽へ逃入「ブラウイ」及「グロズヌイ」

假裝巡洋艦

一隻擊沈「ウラール」

特務船六隻

内四隻擊沈「カムチャツトカ」「イルチツシュ」「アナズリイ」「メルツシ」

二隻上海へ逃入武装解除「コレヤ」「スヴェリ」

病院船二隻

抑留「アリヨール」「カスツロマー」内「カスツロマー」は解放

合計三十八隻内二十隻擊沈五隻捕獲二隻逃走後破壊若は沈没六隻逃走後抑留若は武

装解除二隻抑留一隻解放三隻逃走露艦の沈没及捕獲の損害高は壹億八千五百萬圓

に達すと云ふ

俘虜 戦後戦場附近の沿岸等を搜索して救助收容し得たる撃沈敵艦の乗員尠からず

戦利艦五隻の捕虜と相合して其數殆んど六千に達す

死傷 敵側未詳なれども今姑く在上海露國官憲の言ふ所に據りて全艦隊乗組將校を

一千餘名兵員を一萬三千乃至四千と算すれば俘虜及逃走艦抑留艦等の乗組員を除

き餘は總て戦死せしものと見て可なり

フエルケルザム少將(露國第二艦隊蘇士運河通過支隊を率ゐたる司令官)は本月二十五日頃戦艦「オスラビヤ」に於て

病死せりとの説ありしが該艦生存者の言に據れば同官は二十七日戦闘の初期第一

に司令塔に命中したる砲彈の爲め即死せりと
我軍死傷は全軍を通じ將校以下戦死百十六名負傷五百三十八名なり

敵艦末路

戰艦「オスラビヤ」(左翼列の先頭艦にして)此日午後二時過開戦後間もなく撃破せられ大火災を起し戦列より脱し午後三時過沈没せり

戰艦「クニヤージ」(右翼列の先頭艦にして司令長官)も開戦後間もなく大火災に罹り

戦列を離れ其後数回の水雷襲撃を蒙り最後には艦尾の小砲一門を以て頑強に抵抗せしも遂に午後十時二十分沈没せり

戰艦「アレキサンデル三世」(右翼列)も開戦後間もなく大火災に罹り戦列を離れ午後七時七分「ナヒモフ」の側に到り顛覆沈没せり

戰艦「ボロヂノ」(三番艦)は午後六時四十分頃より大火災を起し七時三十分に至り俄然爆煙に包まれて瞬時に沈没せり

驅逐艦一隻(「ベズウブレ」)は此日亂軍の中に沈没するを目撃せりと俘虜は言へり

假裝巡洋艦「ウラル」(元カイゼリン「マリヤ、テレサ」)は此日午後五時四十分頃撃沈せられたり

特務艦三橋二煙突を有するもの一隻此日午後四時二十分頃撃沈尋で「イルチス」(元「ベルギア」)撃破午後七時十分工作船「カムチャトカ」撃沈せられ「ルツス」も影を没せり

病院船「アリヨール」及「カストロマ」は海牙條約違反の嫌疑あり一時抑留せられ翌二十八日(我が地久節)

敵艦末路 戰艦「ナワリン」は此日午前二時頃韓崎の北東微東約二十七海里の地點に於て北走するを發見襲撃せられ轟沈せり

戰艦「アリヨール」及「ニコライ一世」海防艦「ゲネラル、アドミラル、アブラキシン」及「アドミラル、セニヤール」は此日午前十時卅分頃竹島の南方約十八海里の地點に於て我艦隊に包圍攻撃せられ須臾にして敵艦隊司令官「ネボガトフ」少將は其の部下と共に

降伏せり海防艦「アドミラル、ウシャーコフ」は此日午後三時僚艦の降伏地附近に於て發見追及せられ午後五時過ぎ我勸降に應ぜざるにより遂に撃沈せられたり

戰艦「ソイ、ベリキ」は前夜の水雷襲撃に傷き漂流し午前十一時零五分韓崎の北東約三十海里の地點に沈没せり

巡洋艦「スウェトラナ」は午前九時追窮せられ戦闘約一時間の後午前十一時六分竹邊灣沖に於て撃沈せられたり

巡洋艦「アドミラル、ナヒモフ」及「ウラジミル、モノマフ」は共に大破して侵水甚しく遂に對馬琴崎の東方約五海里及其附近に於て午前十時相前後して沈没せり

巡洋艦「ドミトリ、ドンスコイ」は午後五時頃發見追尾せられ挾撃を受けたれども日没後までは撃沈に至らざりしが翌朝鬱陵島の東南岸に漂ひ遂に沈没せり

驅逐艦「ブイヌイ」は俘虜の言に據れば二十七日午後敵の旗艦沈没前司令長官以下幕僚を收容し此際一彈を受け尋で「オスラビヤ」の乗員二百餘名を收容したるも航海

困難なるを以て司令長官以下幕僚を僚艦「ビエードウイ」に移し北走中二十八日朝「ドンスコイ」に邂逅し其乗員を該艇に悉く移し自から沈没せりと云ふ

驅逐艦ブイストルイは二十八日午前九時巡洋艦「スウェトラナ」と共に發見追窮せられ午前十一時五十分遂に竹邊灣の北方約五海里の無名灣に擱岸破滅せられたり
 驅逐艦「グロムキ」は追撃せられ蔚山沖に至り午前十一時三十分捕獲せられしが該艦も亦大破して遂に午後零時四十三分に沈没せり
 驅逐艦「ビエドウイ」は敵艦隊司令長官ロゼストウエンスキー中將其幕僚を乗せ東方より遁走中午後三時三十分鬱陵島の南西約四十海里に於て發見せられ午後四時四十五分遂に追及捕獲せられたり
 驅逐艦「アウロラ」は敵側公報に據れば二十八日午前一時過ぎ驅逐艦「ボールドルイ」と共に巡洋艦「アウロラ」同「オレグ」同「ゼムチュイグ」に従ひ十海里の速力にて對馬海峽を通過せしも午前五時沈没し其乗組將校四名下士卒七十五名は「ボールドルイ」之れを救助收容せりと

我艦隊の損害 第六十九號艇(福田艇隊司令艇)第三十四號艇(青山艇隊司令艇)第三十五號艇(河田艇隊)の三隻撃沈せられたるのみにして其他多少の損害を蒙りたるものもあるも一として其後の役務に支障を生ぜざりし

曠古大捷 假裝巡洋艦信濃丸軍艦和泉第五驅逐隊第四驅逐隊第十一艇隊第一第十七第十八隊艇第九第十艇隊驅逐艦漣同陽炎の行動は聯合艦隊の作戰を利し或は廿八日の追撃戰を利し所謂豫期以上の効果を收むるに與かりて大に力ありしを以て後ち

(六月二十日參看) 東郷司令長官より感狀を授與せられたり
 「ナヒモフ艦長」クロチコウスキー大佐及ロデオノフ少佐の二名は此日午前十時對馬北

方の沖合に於て漂流せるを山口縣漁夫に救助せられ翌二十九日午前十一時下關警察へ引渡されたり

「テタートス」號撃沈 大阪商船會社雇獨逸汽船「テタートス」(二千四百〇九噸)は小樽より天津に向ふ途中此日午後五時山東角燈臺の南東南六十海里の處にて露國假裝巡洋艦「リオン」(元スモレンスク)に拿捕せられ同艦に隨航せしが翌二十九日午前七時東經百二十二度四分北緯三十六度の所にて撃沈せられ乗組員一同同艦内に收容せられたり

有栖川宮 兩殿下此日獨逸に向け巴里御出發あらせられたり

二十九日

敗船漂着 特務船「イルチス」は日本海々戰に於て撃破せられ二百餘名の將卒を搭載したる儘白旗を掲げ石見濱田港に遁入せり

航海復常 釜山及青森方面の航海停止は此日午後四時より解除せられたり
 「アルマーズ」本艦々長チャギン中佐の報告に據れば本艦は五月二十七日露國艦隊より浦鹽逃入

離れ日没に至りたる後ち戰鬪は再開せられたるも其結果不明なり本艦は一度日本艦隊の爲めに遮斷せられたるも遂に敵の戰線を突破して浦鹽に達することを得たり其損害は尉官一名水兵四名戰死十名負傷せりと
 「スヴェリ」特務船「スヴェリ」は戰場より逃げ來りし證跡判然たるにも拘はらず商船旗を掲揚し他方面より來れりと稱し上海に入港せり

露艦檢船 此日午前十時某汽船は東經百二十二度四十三分北緯二十七度に於て「ドニ」
「エーブル」の爲めに停船を命ぜられしが後ち解放せられたり
露艦檢船 奥國汽船一隻は上海沖サツドル島附近に於て露國巡洋艦より船舶書類提
出を要求せられたり

列國批評 日本海々戰の捷報英京に達するや同地の各新聞は一齊に日本に於ける「ト」
「ラフアルガ」に満足の意を表し熾に稱贊する所あり殊に「タイムス」は曰く露國は最早
海軍國ならざるに至れり佛國の惠深き中立はロゼストウエンスキーを誘惑して没落
の運命に導き又露帝をして飽くまでも冒險を強行せしめたり露國の歐羅巴に於ける
地位は東洋に於ける同國の地位と同様なるに至れりと又伯林に於ては號外を以て日
本海軍の大勝報道せられ一般の同情を得たり又露國の敗北は伯林に最も深甚なる感
觸を與へ官邊は平和の必要なるを確信せり巴里は大に動搖し「タン」及其他諸新聞は平
和を要求せり米國海軍大將「ヂエウエー」は余は斯の如き大敗より戰爭終止以外の結果
を發見すること能はず又奥國新聞は日本の大勝利を以て「西班牙アルマダ」「ナイル」「トラ」
「フアルガ」の大捷に匹敵するものなりと論ぜり
大敗隱蔽 露國人民は檢閲の嚴重なるが爲め此日尙ほ未だ大敗を知らず然かも不祥
なる風説は蔓延しつゝあるのみならず革命黨は又此の風説を誇大に吹聴して内亂を
煽動しつゝあり

有栖川宮 兩殿下伯林に御到着あらせられ獨逸皇帝陛下其他の皇族は親しく兩殿下

を停車場に迎へられたり是れ異常の特例なる由人民熱誠を表して兩殿下の萬歲を唱
へ獨逸皇帝は當日直ちに殿下へ黑鷲綬章を御贈進あり夜に入りて特に宮中に於て兩
殿下の爲めに宴會を開き御待遇鄭重を極められたり

三十日

勅語下賜 聯合艦隊司令長官東郷大將及帝國海軍に朝鮮海峽の偉功を御嘉尙あらせ

られ前途尙ほ遼遠大成を期すべき御旨の勅語を賜はりたり

敵艦隊勦盡 此日聯合艦隊司令長官は海軍大臣及軍令部長に向ひ敵の第二第三艦隊の

主力は殆んど全滅せしに付御安心ありたしと發電せられたり（本月二十七日）

降艦着港 降伏艦イムペレーター、ニコライ一世同、ゲネラル、アドミラル、アブラキシン

同、アドミラル、セニャーウインは此日午前十時四十分佐世保軍港に同「アリヨール」は此

日零時半舞鶴軍港に無事到着せり

「アリヨール」 回航中降伏艦長大佐「コング」負傷死亡したるを以て此日午前七時頃經ヶ崎

附近に於て厚禮水葬せられたり之を觀たる俘虜八百名深く我高義に感じ其の不穩な

る振舞を變じ頗に鎮靜に歸し終には本艦の操縦手廻り兼たるを見て相當の手傳ひを

爲すに至れりと云ふ

降帥入院 俘虜と爲れる敵帥「ロゼストウエンスキー」を載せたる驅逐艦「ビエードウイ」

は此日佐世保に引致せられ中將は同地病院に收容せられたり

降帥電奏 侍從將官「ロゼストウエンスキー」は我軍に收容後東郷司令長官の許可を經

て露國皇帝陛下に敗戰及降伏顛末を摘要電奏せり

降將着佐 ネボカトフ少將以下百六十八名の俘虜佐世保に到着せり

降將優遇 ネボカトフ少將は降服の際東郷司令長官より特に其部下將校以上に帶劍を許されしが此日 叡旨に依り同官に戦況報告並に死傷及俘虜名簿を露帝に送呈の件と降艦乗組士官以上に宣誓歸國の件を許されたり

降將電奏 ネボカトフ少將は東郷司令長官の許可を経て優勢なる日本艦隊に抵抗を試むるの絶對的不可能なるを知り此上二千四百の人命を喪ふを遺憾に思ひ條件附降

伏の已むを得ざるに至れる旨を電奏し叡慮を仰ぎたり

座礁自爆 本艦長フェルゼン男の公報に據れば本艦は敵の爲めにネボカトフ少將の艦隊と分隔せられ全速力を以て逃走し石炭の不足と敵艦との出會を免れんが爲め途

中航路を轉じウラジミル灣に向ひ二十九日夜同灣に着せしが眞黒咫尺を辨せず午前一時半本艦は全く灣口の暗礁に乗上げたり其時石炭を餘すこと僅かに十噸到底救ふべからざるを知り敵手に落つるを防がんが爲め之を爆沈せり海戦中水兵負傷者十名あり其餘は總て安全なりと

浦羅ズスイ 敵側公報に據れば本艦は夜戦の際艦隊と分離しロゼストウエンスキイ中將及其幕僚の移乗し居れる驅逐艦「ビエードウイ」と共に北航せしが僚艦を失ひ獨り

浦日午前十時浦港に到着せり

浦ラウイ 本艦々長ブルノゾオ中佐の報告に據れば同艦は二十七日午後九時艦隊と分離し午後四時機關室を破壊せられ二十九日夜に至り汽管爆破し僅かに五海里以下

の速力を以て辛ふじて三十日浦鹽斯德に着港せりと

ゴレヤ號 本艦も亦「スヴェリ」と同じく戰場より逃げ來りし形跡判然たるにも拘はらず商船旗を掲揚し他方面より來れりと稱し此日午前十一時吳淞に入港せり

三十一日

有栖川宮 日本海々戦の大勝は一層有栖川宮殿下の評判を高め此日伯林に於て大衆の歓迎を受けさせられたり

喪艦發表 是迄發表せざりし我軍艦の喪失左の如し

戰艦八島 三十七年五月十五日旅順口沖に於て觸雷沈没す

砲艦大島 三十七年五月十八日遼陽灣遊弋中僚艦と衝突沈没す

驅逐艦曉 三十七年五月二十日旅順口沖に於て觸雷沈没す

驅逐艦速鳥 三十七年九月三日旅順口沖に於て觸雷沈没す

砲艦愛宕 三十七年十一月六日直隸海峽に於て座礁沈没す

巡洋艦高砂 三十七年十二月十二日旅順口沖に於て觸雷沈没す

軍資獻金 開戦以來此の月末までの献納金額は總計二百二十四萬六千五百五十三圓五十五錢三厘に達せり

我公債暴騰 倫敦市場は浮立てり日本公債尙ほ暴騰して止まず既に五磅高を示せり

敗戦發表 此日の倫敦發電によれば露廷に於ては目下重大の會議行はれ既に本日敗戦の詳報を發表するに決し同時に民心を鎮壓する爲め國會の召集を發表することゝ爲れり

露帝尙未醒 露國顯官某の「タイムス」通信員に語りたる所によれば露帝は尙ほ主戦論な

りと云ふ聖彼得堡は陰鬱に鎖ざると
列國論調 文明各國新聞紙は皆露國が望なき戦争は止めざるべからざることを言ふ
但大陸の新聞紙中には再び黃禍論を唱出せるものもあるも英國新聞は今度の戦争結果
として日本が當然得べき所のものを奪はんとするものに對して英國が反抗すべきこ
とを確言す
露紙亦屈 聖彼得堡ブルスガゼットは曰く對馬沖海戦は日露戦争の勝敗を決した
り歴史の潮流に新路を開けるものなり

六月の戦局

一日

捕獲檢定 米船タコマ號横須賀捕獲審檢所に於て船舶載貨共に捕獲と檢定せらる(三十八年三月十日四日參看)
露艦抑留 上海駐在露國總領事は此程竄入の露國艦船を吳淞に於て抑留することを
諾せりとの報あり右は是迄露國總領事が此等の船舶を以て無害の商船なりと主張し
たるにも拘はらず突然態度を一變したるは某日本艦隊揚子江口に來るべしとの急報
昨日上海に於て公にせられたるに依ると云ふ(五月廿五日參看)
露艦檢船 露國假裝巡洋艦ドニエーブルは呂宋の北方に於て獨船プリンツジギスム
ンド號を停止し書類を檢査して後航行を許せり

二日

侍從差遣 井上侍從武官艦隊慰問の聖旨を帯びて東京を發す
露艦臨檢 英國汽船シラーナン號上海より門司に向ひ航行中吳淞を去る八十浬の處
に於て露國假裝巡洋艦リオンに出會し停船を命ぜられ臨檢の際亂暴にも大豆棉花ア
ンチモニー等を海中に投棄せられたれども別に禁制品の搭載なきを以て解放せられ
たり
敵艦長死亡 佐世保に於て療養中なりしドミトリー、ドンスコイ艦長は此夜死去したる
を以て長崎に送られ五日禮を厚くし埋葬せられたり
バラショフ去旅 旅順の非戦闘員露國赤十字社全權委員長バラショフ將軍及其一行二十
八名と共に鳩灣より乗船して歸國の途に就けり

三日

戦利船改名 五月廿四日引揚げられたる戦利汽船アンガラは姉川丸同、カザンは笠戸丸
と命名せらる
降帥慰問 山本海軍大臣は佐世保海軍病院に在るロ中將に花束を添へたる慰問狀を
贈り尙ほ同病院及似島大里兩俘虜收容所にある露國艦隊負傷者にも慰問を及ぼせり
降帥訪問 東郷大將は此日午後二時頃ロ中將を其病床に訪ふや中將は力めて身を起
し慇懃に之を迎へ大將の禮を厚くして慰安せらるゝに對し厚遇及仁訪を感謝し坐ろ
に感涙に咽びたり
露艦馬尼刺竄入 露國艦隊司令官エンクイスト少將は巡洋艦アウロラ同、オレグ同、ゼムチ

ユীগを率ゐる此日午後十時馬尼刺に入港せり其公報中には運送船を危地に陥らしめたるを辯疏し北方に逃れずして南方に通るゝの已むを得ざるの次第及巡洋艦多大の損害を蒙り加ふるに石炭の缺乏を來たしたるを以て遂に馬尼刺に向ふに決したる顛末を記せり

露艦停船 臺灣香港間往復の汽船「プロミツス」は此日香港を出て航行中露艦「ドニエール」に停船を命ぜられたりとの報あり

四日

上海逃入 敵側公報に據れば驅逐艦「ボードルイ」は「プレスチャイスチー」と共に南走巡洋艦に従ひ十哩の速力にて對馬海峡を通過せしも「プレスチャイスチー」は沈没(五月二十八日)

参(看)せしを以て其乗組員を救助收容し南航繼續中遂に巡洋艦を見失ひ加ふるに石炭缺乏し艦體の木製部も焚き盡し進退窮まるに至りしが英國汽船に救はれ上海まで曳行せられたりと

此日の上海發電に「パタフィールド、スワイヤ」商會汽船「クシリ」號は「シャワシヤン」の北方に於て進退の自由を失ひたる露國驅逐艦一隻を曳行中なり

露艦索船 露艦「ドニエール」は此日汕頭附近を徘徊しつゝありとの報あり右に付大阪商船會社は臺灣廈門間の航海を中止せり

「セントキルダ」英國汽船「セントキルダ」號(登錄噸數二、二六九噸)は日本行郵便物を搭載し香港より航行中假裝巡洋艦「トニエール」に逢ひ臨檢の末撃沈せられ日本郵便物の一部は破却せられたりとの報あり

退浦命令 浦鹽要塞司令官は軍人軍屬市民の家族にして防禦の關係なき者は要塞地帯より退去すべく命令し此の命令に背く者は強制執行すべき旨を布告せり(五月十九日參看)

歐米論評 米紙は現世紀末日本の國力世界の首班に陞るは疑を容れずと賞し佛紙は講和の勸告赤心より出づ熱き同情無くんば安ぞ此言を成さんと嘆じ塊紙は極東海上の覇者たる日本の同意を得ざれば露國々旗を沿海に掲ぐるを得ずと論じ英紙は露帝既に内心に悔の復た前日の如く君側の奸臣に動かされざらんことを戒め獨紙は日軍將卒身を忘れ克己自ら抑損し精勤事に當る連捷因由ありと評し露紙は敗殘の陸海軍力を巧みに使用し名譽の講和を策せよと慨せり

露艦捷船 此日の哈爾濱通信として「ノウオエウレミヤ」に載する所によれば露領沿岸に於て臘臍密獵をなして捕へられたる六十名の日本人は六月四日哈爾濱に護送せられたりと云ふ彼等は五隻の帆船に乘組み密獵し居たるものにして内に米國の獵師六名あり獸皮の船中に積込みありたるもの多く同密獵船はオチミ島附近に於て露國水雷驅逐艦に捕へられたるものなりと云ふ

五日

捕獲艦命名 日本海々戰の際捕獲したる戰艦「アリヨール」は石見、同「イムベラートル」、ニ

コライ第一世は壹岐裝甲海防艦「ゲネラル、アドミラル、アブラキシン」は沖島、同「アドミラル、セニアール」は見島、驅逐艦「ビエードウエー」は臯月と命名せらる

露艦解裝 露國驅逐艦「ボードルイ」艦長は既に武裝を解き抑留の處分を受くることに同意し又乗組人員一同再び本戰役に從事せざる旨の誓書を吳淞清國海軍指揮官に差

出せりとの報あり
瓜生艦隊 瓜生艦隊は吳淞港外ガツラブノ三海里沖に停まる右は露艦武装解除監視
南清派遣 瓜生艦隊は吳淞港外ガツラブノ三海里沖に停まる右は露艦武装解除監視
の爲めならんと云ふ

「アイコナ」撃沈 英國汽船「アイコナ」號(登録噸數三、三八二噸)は本邦に向け蘭貢米七萬袋を搭
載し此日香港の北約百五十海里の處にて露國假裝巡洋艦テレーク(元コロムビヤ)の爲
めに撃沈せられたりとの報あり

六日

獨廷婚儀 去る三日より伯林府に於て行はせられたる獨逸國皇太子フレデリック、ウ
キルヘルム殿下とメクレンブルグ國セシル、アウグスタス、マリー公主との結婚式は連
日莊重に舉行せられ此日聖座の浸油式には我天皇皇后兩陛下の御名代有栖川大將宮
同妃兩殿下を始めとし列國帝王后妃大使等の參列非常に多く其式の壯觀古今未曾有
なりしと云ふ

七日

露艦抑留 米國政府は馬尼刺港に竄入せる露艦三隻(本月三)に對し同港に抑留すべく
然らずんば二十四時間内に港外に出づべき旨を命じたり

有栖川宮 兩殿下は此日伯林御出發あらせられたり
捕獲檢定 英船「ハーバートン」號は横須賀捕獲審檢所に於て其載貨共に捕獲と檢定せ
らる(三十八年三月二十八日參看)
露艦解裝 上海入港の露國驅逐艦ボードルイは昨日より港内機器局附近に繋ぎて武

裝を解除しつゝあり其他の露艦も吳淞並に上海にて武装を解除し驅逐艦より上陸せ
しめし傷兵は病院にて治療後艦内に抑留することゝなれり(本月四日參看)

八日

捕獲確定 三十七年二月十日拿捕せられたる露國太平洋捕鯨會社汽船「アレキサンド
ル」號は同年五月廿六日佐世保初審の全部沒收檢定に服せず抗議を提出せしが今六月
八日再審の末抗議棄却確定せらる(三十七年二月十日參看)

九日

露艦解裝 在馬尼刺露艦三隻(本月三日及七日參看)は米國政府の命に依て悉皆武装解除を結了
せり

十日

講和顛末 此日米國大統領より我政府に對し兩交戰國自己の爲めのみならず文明世
界全體の利益の爲め日露兩國政府相互間に直接の講和談判を開始せんことを勧告し
來れり

露帝返電 ロ中將の敗戰顛末電奏(五月三十)に對し露帝は此日本邦駐劄佛國公使を經
て感謝及慰藉の勅答ありたり

獨人解放 拿捕船「インダストリー」號に乘組み居りたる獨逸人バンニジル(本年三月廿
八日參看)は軍機を漏洩せずと宣誓して解放せらる

十日

有栖川宮 兩殿下ハンブルヒに御着浴場に御滞在あらせらる
講和顛末 帝國外務大臣は昨九日米國大統領よりの講和勸告に對し其の勸告に應ず

ること及便宜と認めらるべき日時及場處に於て露國全權委員と會合せんが爲め帝國全權委員を任命すべきことを回答し露國政府も直ちに之に應じ其旨を回答せり

講和顛末 滿洲軍總司令官リネウキツチ大將及在滿洲各軍司令官クロバトキン、コールバルス、バチャノフ總參謀長サハロフ及將軍レンネカンブ、ザルーパー、バイフ、ビルデルリ、グ、ルヴオス、サムソノフ、ダニロフ、ゴルフ等は連署して講和反對意見を奏上せりと

捕獲檢定 瑞典汽船「ヴェツカ」號佐世保審檢所に於て船舶搭載貨物共に捕獲と檢定せらる(本年三月三日參看)

遁竄露船 旅順開城の當時膠州灣に遁れたる元伊船「ニナ」號(噸數一、二五五)は其後獨籍に編入せしが此日石炭及金貨數百萬圓を積み膠州灣を出港せりと(報あり同船中には露國士官三人乗組み居り行先不明なるも浦鹽斯德又は馬尼刺ならんと云ふ)

海戰譏評 倫敦タイムスは日露兩帥の戰術を對照し批評して曰く東郷大將の實行せる巧妙なる配置は遂に日本艦隊をして恰もテキサスの牧童が牛羊の亂群を制するが如くロゼストウエンスキーの艦隊を包圍制壓するを得たりと

英艦召還 英國海軍省は支那艦隊に屬する戰艦全部を即時本國に召還することに決せりと(報あり)

十一日

捕獲檢定

露艦停船

英船「パウダーハム」は佐世保審檢所に於て船舶載貨共捕獲と檢定せらる(本年二月十九日參看)

和蘭國郵船「フロレス」號は本日午後三時ダイヤ、ポイント沖(スマトラ島北部)に於て

露艦「下ニエブル」に停船を命ぜられ同艦が曩に英國汽船「セント、キルタ」號より收容したる支那人四十一名及郵便行囊を移載して十三日新嘉坡に入港せり(六月四日參看)

降將處分 ネボガトフ少將の條件附降服電奏(五月三十日參看)に對し露帝の勅答あらざるに付此日更に口中將より右降服に關し哀奏する所ありたれどもネボガトフ少將以下降服將校の宣誓歸國を允許せられざるに付勅許來れば放還するの條件を以て陸軍收容所に轉送せられたり

十二日

講和顛末

病院船審檢

海軍中佐

露國は巴里駐劄大使ネリドフを講和全權委員に任命せり

「アリオール」は英船「ヨールドハミヤ」號の船長及び乗員四名を收容したる事實(本年五月十日參看)并に海牙條約違反の廉あるを以て沒收せらるべきに付本日船長非役露國海軍中佐ヤコフコンスタンチノウイツチラマドフ以下百二十名醫長ヤコブムリタノスキー以下九十四名患者三十餘名は解放せられたり

十三日

講和顛末

見地を滿洲内

に訴訟起り

露國は巴里を以て兩國講和の談判地と定めたき旨正式に申出であり

某所に着したる電報に據れば米國大統領ルーズベルトの意見は兩全權會見地を滿洲内に指定せんとするにありと

本船の賣買に關し上海駐在員パウロウ丁抹人クリステンセンとの間に訴訟起りクリステンセンは本日上海丁抹審廷に於て本船は萬國赤十字協會の發起に係るものと稱し其實被包圍中なる旅順口(旅順)の消息を探らんが爲め露國用に供したる

次第并に汽船エヂステール號を露國病院船用として購求する契約中止及浦鹽行麥粉の大注文契約違反の顛末を陳述したり

十四日

講和顛末

華盛頓電報によれば會見の場處一定せず華盛頓も滿洲も共に満足ならずルーズベルトは或は之を仲裁すべしとの報あり

病院船解放 「カストロマ」は紅海の佛領ジブチに至るまで無線電信を備へ付けたることと海牙條約に背き佐世保抑留中塗換へたる等嫌疑の點ありしも解放に決せり

俘虜處罰 旅順開城と共に俘虜となり松山に收容されたる「ボルタワ」乗組員たりし露國少尉等八名此日脱走せしも捕はれて禁錮五年に處せらる

露艦彷徨 汽船「テタートス」を撃沈して其乗組員を收容したる露國假裝巡洋艦「リオン」號(五月二十

八日參看)はバタバヤに又同「クーパー」號(元アムガスデ、ヴィクトリヤ)はセント、ジャック

クスに到着せりとの報あり

十五日

講和顛末 米國大統領は日露兩交戰國の要求により兩國講和全權委員の會合地を華盛頓に撰定せる旨宣言せり

十六日

伏見若宮 博恭王殿下韓國より御歸京あらせられたり(五日廿五

日參看) 講和顛末 聖彼得堡の新聞紙は倨傲なる筆鋒を以て平和の提議を論じ日本は露國よりも一層平和を欲望するものなりと云へり

清廷會議 清廷は十二日以来日露講和に關し秘密會議を開き擬議中なるが結局清國政府の英米兩國の同情に倚り日露講和會議に清國の參列を切望するにありて廟議は既に其參列全權大使として肅親王を派遣することに内定せり

西貢露艦 本日西貢よりの電報に依れば今や西貢に在泊する露國運送船は廿二隻にして尙ほ假裝巡洋艦「クーパー」はセント、ゼームス岬に碇泊し運送船一隻と共に明旦南方に發航する豫定なりと云ふ(本月十四日參看)

太公辭職 露國元帥太公アレクセイ、アレクサントロウキツチは願に依り艦隊最高司令長官及海軍總裁を免ぜられ海軍元帥侍從將官自餘の官職は左の如し(別表略)

十七日

講和顛末 露國外務省は日露兩國の間に休戰條約に關し交渉ありしとの説を否認せり

英船擊沈事件 上海新聞は露艦「ドニエール」か英船「セントキルダ」擊沈事件(本月四日參看)を以て

海軍上保險 所業なりと憤慨し英國政府は宜しく之が退治を斷行すべしと絶叫せり

率暴騰 過日來露艦の商船擊沈起りしに付き「ロイド」の印度より日本行保險料は最近數日間に於て二志半より一躍四十志に騰貴せり

十八日

高砂戰死 除幕式本日吳に於て舉行せらる

露國病院船 「モンゴリア」號本日午前十時旅順より芝罘に入港す

上海取締 上海道臺は諸外國領事に清國官吏の許容なくして交戰國戰鬥員を中立船

船内に搭乗せしむること無からんことを要求し併せて出入船舶乗員に嚴密の監視を

加へんことを税關吏員に命ぜり

乗組員着港

五月二十八日山東角附近に於て露艦リオンに拿捕擊沈せられたる汽船「テ

タートス

の乗組員内本邦人七名は其當時「リオン」に收容せられ同艦のバタビ

ヤ着後解放せられ

今十八日無事新嘉坡に着せり

英船擊沈事件

英國汽船「セント、キルダ」號擊沈（本月四日）に關し駐露英國大使「ハーディング」は

強硬なる抗議及損害賠償の要求を露國外務大臣に提出せしに同大臣は英國大使に約

するに本件を海軍大臣に移牒すべき旨を以てし尙ほ昨年中英國に與へたる其保證（昨

八月二日及同

大日日誌參看）は今に至るも有効なり「セント、キルダ」號の如きは異例なり恐らく何等かの

誤解に出でたるものならんと附言せり

瓜生艦隊

本日の上海發電に依れば我總領事は瓜生艦隊が長江を巡視せんと欲する

湖江問題

旨を兩江總督周馥に照會せしに同總督は時柄他國の猜疑を招き或は人心を不穩なら

しむるの虞ありとし外務部に訓令を仰ぎたりと（六月五日）

西貢露艦

露國假裝巡洋艦「クーパー」は二隻の運送船と共に「サバン」灣「スマトラ」ブル

エ」四貢を出發せりとの報あるも右は誤傳にて本月廿五日も尙同港に在りて給炭船

より石炭積込中なりとの確報あり（本月十四日）

二十日

感狀授與

東郷聯合艦隊司令長官より日本海々戰に殊功ある艦艇等に感狀を授與せ

らる其艦艇は左の如し（三十八年六月廿七日官報）

假裝巡洋艦「信濃丸」（連日連夜哨戒の任務に服し廿七日拂曉敵艦隊の北上を聯合艦隊に速

報し其作戰を利せしこと大なるの功績）

軍艦「和泉」（二十七日の海戰に敵の砲火を冒して我陸軍運送船等を掩護したるのみな

らず敵情を精察詳報し聯合艦隊の作戰を利せしこと尠なからざるの功績）

軍艦「千早」（二十七日敵艦隊に接近し水雷發射を試み且つ敵の旗艦「クニヤージ」スワロ

フに對し水雷攻撃を遂げたるの武勇）

第五驅逐隊 二十七日敵旗艦「クニヤージ」スワロフに對し尙晝夜襲撃を行ひ翌二十八日

不知火は敵艦「アドミラル」ナヒモヒを捕獲し且つ蔚山沖に於て第六十三號艇と共に敵

驅逐艦「グロームキ」を擊沈し又叢雲は竹邊灣附近に於て新高と共に敵驅逐艦「ブリス

トルヌイ」を擊滅せるの功績及武勇）

第四驅逐隊 （二十七日敵の旗艦「クニヤージ」スワロフに對し白晝攻撃を遂げ且つ二十八

日敵艦「ナワリン」を奇襲して轟沈したるの功績及武勇）

第十一艇隊 （二十七日敵の旗艦「クニヤージ」スワロフを襲撃して轟沈したるの功績）

第一艇隊、第十七艇隊、第十八艇隊 （二十七日夜各驅逐隊等と共に風濤を冒し敵艦隊に肉

薄して襲撃を遂げ敵艦隊を四分五裂せしめ間接に二十八日の追撃戰を利すること尠

なからざるの功績及武勇）

第九艇隊、第十艇隊（同上の功績）

驅逐艦「連陽炎」（二十八日鬱陵島の南方に於て敵驅逐艦二隻を捕獲し敵の主將を生擒し

刺の方向に航走せりと云ふ(本月五日參看)

二十六日

有栖川宮

兩殿下英國倫敦に御安着英國皇帝及皇后陛下に謁見あらせらる

講和顛末

米國大統領は露國政府に向ひ講和談判會議は八月初週華盛頓に於て開始する旨を通告し露國は之を承諾し既に其全權委員を選定したり尙大統領は既に日本全權委員氏名の通牒を受領し居れりとの報あり

二十七日

有栖川宮

兩殿下は今朝半公式鹵簿を以て英國諸皇族を御訪問あらせられ午後には植物園に於ける日本協會の園遊會に御列席夜は英國皇帝及皇后兩陛下と、バツキンハム宮にて御會宴あらせられ又宮殿下は本日、グラント、コンマンダー、オヴ、ゼ、バース勳章を御受けさせらる

「カシリー」

前に上海を發したる露探嫌疑船「カシリー」(廿八年五月十二日參照)はニコライエフスクに向ふの途流氷の爲めに止むことを得ずして南下し此日ケーブ、ペーチアンスの北西

約二十五海里にあるブラツトコツクス鼻の西方に坐礁せりとの報あり

「アナツイル」

露國運送船「アナツイル」は日本海々戰に参加せし露艦の生存者三百廿七名を乗せ本日マダカスカル島デユエゴシユアレに到着し七月一日歐洲へ向け出港せりとの報あり

露艦檢船

英國汽船「パリヌ」號は支那海南端ナチユーナ島附近に於て露國假裝巡洋艦「テレック」號の爲めに停船を命ぜられ一時間抑留せらる

二十八日

捕獲檢定

諾威國汽船「ヘンリーバルコウ」號は本日横須賀捕獲審檢所に於て船舶載貨共捕獲と檢定せらる(本年四月七日參看)

英船擊沈事件

駐露英國大使は本國政府より英國汽船「アイコナ」號擊沈事件に關し露國外務大臣の注意を促すべき訓令を受けたり(本月五日參看)

二十九日

「ベレスウエート」

本日無滯浮揚れり(旅順沈沒艦引揚第二)

講和顛末

帝國政府は八月初旬を以て講和の會商期と爲すことを承諾せり

講和顛末

帝國政府は露國より正式の通牒に接するまでは日本全權委員の指命を拒めり

講和顛末

米國大統領ルーズベルトは日露兩國全權委員用として海軍用「ヨット」メー

「テレーク」

號を指定せり
露國假裝巡洋艦「テレーク」號本日バタバヤに入港し石炭及糧食品の供給を要求せしが該艦長は中立規則に據つて許さるべき數量を以て満足せず且つ二十四時

間内に出港し能はざるを以て同艦は武装を解除し乗組將校及兵員は其艦内に留ま

ることを許されたるも地方官憲の監視の下に置かれたりとの報あり(本月五日同二十七日參看)

露艦謀叛

オデツサ港内に碇泊の露國戰艦「クニヤージ」ボテムキン(二四八〇噸)の乗組水兵謀叛し陸軍々隊に向て威嚇し深夜に至り哥薩克風紀衛兵に向け砲彈を發射し

て廿四名を殺傷せり

三十日

地名改稱 水路部既刊圖誌中韃靼海峽は間宮海峽と黒龍海灣は間宮海峽北部と改稱せらる

降將問罪 露國參謀本部はネボカトフ及降伏艦四隻の艦長を軍法會議に附すべしと公言せり

駐清露使 本日本日北京に着任せり(四月二十日)
「サムソン」號の船

價及艤裝雜費中六萬兩より壹萬九千兩を差引きたる四萬壹千兩を得ることとなりパウロウの勝訴に歸したり(本月十三日)
日参看)

七月の戦局

一日

捕獲確定 三十七年二月十日拿捕せられたる露國堪察加商工業會社汽船コチツク號は同年五月十八日横須賀初審の全部沒收檢定に服せず抗議を提出せしが今七月一日再審の末抗議書棄却檢定確定せらる(三十七年二月十日参看)

帆船遭難 此日帆船太田丸登簿噸一〇七は堪察加オゼンマイ沖に於て露兵の爲めに襲撃せられ乗組員十二名中五名殺されたりとの報あり

二日

講和顛末 露國全權委員ネリドフ辭任し羅馬駐劄大使ムラヅイヨフ之に代はる

降將處分 降將ネボカトフは宣誓歸國を准許せられずとの報あり(六月十一日参看)

乗組員揚陸 「セントキルダ」露艦「ドニエール」はセントキルダ乗組員をポートサイドに揚陸せりとの報あり(六月四日及二日参看)

「プリンスマリ」 六月二十二日「テレーク」の爲に撃沈せられたる諸船「プリンスマリ」乗組員は此日佛國郵船「ラーセーヌ」にてバタビヤより新嘉坡に到着せりとの報あり(六月二十日参看)

露艦彷徨 此日某々の二汽船はマラッカ海峽新嘉坡を距る約百五十浬の處に於て露國假裝巡洋艦「クーバン」と覺しきもの、北西の方向に航進しつゝあるを認めたりと云ふ(六月十四日参看)

露艦謀叛 黒海艦隊の謀叛艦「クニャーヂ」ボテムキンは其鎮定の爲に來れる黒海艦隊の前面に突進して戦闘を開始し其結果政府側艦隊は侮辱失敗を被りて何の爲すこともなくセバストポール軍港に歸港し謀叛鎮定の使命は全く不成功に終れり戦闘艦「ゲオルギ」ボベドノスチエフ(號一萬二千八百八十噸)も亦謀叛に加擔したり「ボテムキン」及水雷艇二百六十七號はオデツサより轉じて二日ルーマニヤ國クステンジ港(黒海沿岸の一港)に到着し食糧を要求せり而して「ボベドノスチエフ」は尙ほオデツサに留まれり同市の市民は避難遁逃相次ぎ其損害七千萬圓に達せり(六月二十日参看)

三日

講和顛末 小村外務大臣及高平全權公使講和全權委員に任命せらる

「テレーク」乗組員上陸

(六月二十
九日参看)

豫てバタビにヤ抑留せられたる露艦「テレーク」乗組員は同地に上陸せりと

四日

北遣艦隊 豫定の如く午前九時陸軍輸送船隊を護衛し樺太に向ひ出發す
香取進水 英國毘社に於て製造の第一甲鐵艦香取進水式舉行せられ有栖川宮殿下御
臨場同盟國の土地より出でたる鐵を以て構造せられ同盟國の最も温き同情を以て裝
釘せられたる本艦は三笠と同一の搖籃の産物にして日本海軍に取り至大の勢力なり
平和回復せらるゝの日本艦は極東の平和に對する最も有力なる一保證たるべしとの
意味の御演説ありたり

講和顛末 辨理公使佐藤愛鷹、政務局長山座圓次郎、公使館一等書記官安達峰一郎、外務

書記官本多熊太郎、外交官補小西孝太郎の五名は講和全權委員隨員として米國へ差遣
せられ歩兵大佐立花小一郎、米國公使館附に補せらる同時に露國にありてはムラヴィ
ヨフの外米國駐劄公使ローゼン男講和全權委員に任ぜられ國庫局長シボツス、北京使
劄公使ボコチロフ、公法學者教授マルテンス、倫敦大使館附武官エルモロツフ及元東京
駐在公使館附武官海軍大佐ルーシンの五名は露國講和全權委員の顧問に任ぜらる
拿捕船改名 「ロシヤ」外二隻の船名左の如く命ぜらる
「ロシヤ」濟州丸(三十七年二
月七日参看)
「エカテリノスラブ」韓崎丸(三十七年二
月六日参看)

「アレキサンダー」歴山丸(三十七年二
月十日参看)

叛艦降伏 反亂に加はりたる「ゲオルギ、ボベトノスチエフ」は降伏せり其水兵四十五名
は後(六日)オデツサに於て絞刑に處せられたりとの報あり(七月七日参看)
露船謀叛 此日の倫敦電報に依れば露國運送船「プロト」號の乗組員クズテンジ出發
前に反亂を起せり反徒等は監督官を絞殺せる後激烈なる檄文を發して彼等に來り會
せざる一切の露國船舶に對して開戦を宣告し且つ露領諸港は砲撃するも中立國の權
利は尊重すべき事を宣言せりと(六月二十
九日参看)

五日

彼理紀念 基金は其額十萬三千圓に達したるを以て會長スミスは該金の處分を一に
上裁に仰がんことを請願せしが後(本月八日)該基金は軍人援護會に下賜せられたり
レヂーケール將軍 露國陸軍大臣侍從將官中將サハロフ依願本官を免ぜられ陸軍省事務
局長レヂーケール陸軍大臣心得に補せられたりとの報あり
パリツイン中將 騎兵總監參謀長より參謀總長に補せられたり

六日

戒嚴解止 臺灣全島(澎湖島を除く)及澎湖島馬公要港境域内并其沿海の戒嚴は本日限
り解止せられたり(五月十三
日参看)
講和顛末 小村全權委員に對し平和を永遠に恢復すべしとの勅語を賜はる
叛艦暴行 此日の倫敦電報に依れば戰艦「ボテムキン」の叛徒はテオダシア(クリミア半島
トボール)市の當局吏員に來艦を命じ石炭五百噸と糧食及煙草とを要求し二十四時間内
ニ對ス

七日

に命に應ぜざれば市街を砲撃すべしと威嚇し又市長には戦争の終結と地方議會の召集とを要求するの宣言書を市民に頒布すべきこと及革命運動に加はらしむる爲め人民を召集することを求めたり市民は不意の事變に驚き避難しつゝあり市吏は糧食を供給するに決したり然れども石炭は貯蓄なしとて其要求を拒絶せりと(七月二日参考)
叛艦暴行 又同電報に依れば黒海の全艦隊は謀叛艦クニヤージボテムキン(同)の捕獲に従事しつゝあり而してボテムキンは熾んに砲火を以て其敵艦隊を猛撃せりと(同上参考)

北遣艦隊

出羽中將の率ふる艦隊は豫定上陸點に達し掃海を執行すると共に艦隊の一部及輸送艦隊を掃海面に入らしめ聯合陸戰隊を上陸せしめたるに何等の抵抗に會せずして目的地點を占領し續いて陸軍の一部も上陸を遂げ陸戰隊は之に其守地を譲り無事任務を了へて歸艦せり又掃海隊は突然コルサコフの南方高地の砲臺より砲撃を受け一時掩護の任に當れる赤城と共に敵砲火の下に掃海を強行し遂に目的區域の掃海を了れり

講和顛末

ボーツマウスを以て講和談判地と定めらる

叛艦暴行

叛艦ボテムキンは英國の一石炭船を掠奪したりと云ふ此暴叛事件に關し露國新聞紙は政府の無能を憤慨し又ノウオエウレミヤは反亂を鎮定する爲め英國艦隊を派遣するの必要ありや否やを詰問せり(本月六日参考)

八日

講和顛末

小村全權委員一行横濱を出發す

九日

叛艦投降 「ボテムキン」及之に伴へる一水雷艇乗組員はクシテンジに於てルーマニア官憲に降伏し同國內の各地に送られ抑留せられたり
叛艦監禁 「アルト」號乗組員百五十名はセバストポール要塞に監禁せられたりとの報あり(本月七日参考)
英國抗議 英國は黒海事件に就き抗議を提起し斯の如き形勢は列國をして直ちに共同の動作に出づるの止むを得ざるに至らしむるものなりと云へり

十日

勳章取上

露國皇帝は黒海艦隊に屬する各將校の「セントジョージ」勳章を取上げたり

北遣艦隊

東郷少將司令官は陸軍兵を搭載せる巡洋艦二隻及水雷艇四隻を率ひ本日本無事近藤岬(元ノトロ岬)を占領したり

戦利船命名

「ナガタン」號は長柄丸と改名せらる

捕獲檢定

汽船「バウトリ」號本日佐世保捕獲審檢所に於て船舶載貨共捕獲と檢定せらる(本年一月十日参考)

十一日

有栖川宮

兩殿下ボーツマウス御出發サバムトン沖より北獨逸「ロイト」汽船「ブロイセ」號に御乗船御歸航の途に就かせらる日本海軍旗を翻せる驅逐艦六隻之を護衛す御歸航の際殿下より英國に對し令旨ありたり其令旨に於て英國に於ける歓迎は誠意誠心より出でたるものにして斯の如きは日英兩國國民兩皇室の幸福を増進せざらんと欲

十二日 するも能はず日英兩國を連絡せる感情は其同盟如何なる程度に達するとも形式的の同盟に非らずして日英兩國國民の衷心より湧き出づる熱意に外ならず」と切言し玉へり

地名改稱

此日黒龍沿岸州薩哈連島に關する地名中左の如く改名せらる

樺太薩哈連島東伏見灣千歲灣七郎灣對馬灣近藤岬重藏岬片岡岬忍耐港海鳥島二丈岩海獅岩海豹島

海相更迭

露帝勅詔 海軍中將ビリレフはアヴェランに代り海軍大臣に任ぜられたり此時露帝

は海軍の再興は一日も緩くすべからざるが故に海軍大臣の權限を擴張し總て直接に上奏すべしと宣し又黒海事變に關して善後策を垂示せられたり

十三日

講和顛末

此日の倫敦電報に依れば昨十二日露國講和委員ムラビヨフ伯は講和問題

に關し露帝に諫奏したる爲逆鱗に觸れ本日政府の官職を去るべきを命ぜられたりと捕獲檢定 獨國汽船インダストリー號は本日佐世保捕獲審檢所に於て船舶載貨共捕

獲と檢定せらる(本年三月二十八日參看)

浦鹽露艦 此日(ロシア)外海より歸航しアルムーヅ内灣に碇泊すと云ふ

海將免言

此日の桑港發電に依れば黒海艦隊司令長官クルーゲルは該艦隊謀反の隊

十四日

戰利船命名

戰利汽船ニングダは生田丸と命名せらる

拿捕船命名 去年二月十日横濱碇泊中拿捕せられたる露船コチツク號は北洋丸と改名せらる

講和顛末 此日露國官報にて大臣委員會總裁ウキツテをして全權委員の任に當らしむる詔勅を發表す

講和顛末 高平全權及ローゼン男米國大統領に面會し談判手續に就て談合す

佐渡丸乗員 露國俘虜と爲り居れる英人は此日解放せられたりとの報あり

十五日

講和顛末 此日の露都にて傳へらるゝ所によればウキツテに對する訓令の趣旨は成るべく露國の爲めに利益なる條件にて和約を締結せよと云ふに在りて委託の範圍は制限されず露帝は今尙ほ日本が必ず要求すべき所のものを與ふる決心なきものゝ如しとの報あり

十六日

北遣艦隊 山田北遣艦隊司令官の報告に據れば露巡洋艦「イズムルド」は聖浦知密兒の南灣入口ヲレコーバ角の北方に擱坐し艦首を西南西に向け右舷に傾斜すること約二十度船體及武器破損の度大なるを以て到底引揚使用に堪へざるものと認むと云へり

十七日

北韓方面 我驅逐艦は雄基灣に於て敵兵二百より射撃を受け直ちに之を砲撃沈黙せしめ尙ほ其附近を威嚇砲撃せり又素清に於ては敵の騎兵五六騎街道を進行しつゝあ

りしが我驅逐隊の海岸に接近するを見て蒼皇遁走し尙千早は羅津浦の西端ゲカ角北方高地に在る敵の通信哨及監視兵に砲撃を試みたり

十八日(記事なし)

十九日

旅順禁入

官用船舶の外許可を得ざる船舶は當分の内旅順口出入を禁ぜられたり

二十日

講和顛末

小村全權委員一行はシアトルに到着露國全權ウキツテは露都を出發す

二十一日(記事なし)

二十二日

「ボルトワ」

本日早朝より排水を始め經過頗る良好にして午後三時全く浮上れり(旅順)

「艦引揚」

第三

二十三

北遣艦隊

豫定地點を出發し此日多少の濃霧を冒しアレキサンドル附近なる豫定上陸地點の掃海を了はるや翌二十四日輸送船を掃海面に導き陸戰隊を上陸せしめ何等の抵抗を見ずして必要なる地區を占領し次で陸軍兵の揚陸を開始し我陸戰隊は其守地を之に譲りて歸艦せり

勅語下賜

右に對し二十九日片岡北遣艦隊司令長官に優渥なる勅語を賜へり

講和顛末

米國大統領は國務次官ピアース氏を以て日露兩全權の接伴委員とせり

二十四日

北遣艦隊

支隊は此日クレスタークンブ附近に上陸せしに燈臺監守員は逃走して人影なし又港内深く侵入しバサルト附近に至りし時アレキサンスキ電信局の位置に砲四門を認めしが突然二門より砲撃せしを以て直に之に應戦し敵は沈黙し市街は大

火災を起せり

講和顛末

露國皇帝は芬蘭の沿岸にて獨逸皇帝と親密なる會見を遂げたり恐らく講和問題に關しての事ならんと云ふ

引揚邦人

露國引揚本邦人二百九十八名獨船「ハインリツヒ」號にて長崎に歸着せり

二十五日

退島許可

此日我が樺太軍司令官は同島民に對し任意退去し得る訓令を發せり

講和顛末

小村全權委員一行紐育に着す

捕獲檢定

捕獲露國病院船「アリヨール」號(捕保丸)は本日佐世保捕獲審檢所に於て捕獲と檢定せらる(本年五月二十七日參看)

「カシリー」號

北遣艦隊は前月樺太東岸片岡岬附近に坐礁せる露探嫌疑船「カシリー」(本年六月二十七日參看)乗組員着港

乗組員の一部端舟にてチフメネフに上陸し居る旨を以て本邦駐劄獨國公使より救助の依頼ありしかば之に應じ救助艦を派遣し同船員獨人四名英人二名諾威人一名支邦人三十名(内一名病死)を收容し本日小樽港に歸着せり

二十七日

汽船捕獲

獨船「リデイヤ」(總噸數七五四)は食鹽、帶鐵等を搭載しハンブルグを發しニコライエフスクに向ひ航行中難破し那覇に漂着して拿捕せられたり

拿捕船改名 去年十一月十九日圓島附近に於て拿捕せられたる獨船「ベテラン」號は八浦丸と改名せられたり

二十八日

講和顛末 小村高平兩全權委員は米國大統領をオイスターペーに訪問す

二十九日(記事なし)

三十日

樺太軍政 此日樺太軍司令官陸軍中將原口兼濟は樺太全島に軍政を布く旨達示せり

三十一日

清軍恤兵 開戦以來此日に至るまでの海軍恤兵寄附人員數は三四六、二九〇名(内ち外國九、七三八)にして金額は五三五、三六五圓四〇錢四厘(内ち外國人寄附額一三五、一〇六圓)なりと云ふ

抑留將校 此日獨船「ゴウフェル」ノイル、ヤエスケは「ツエサレ」ウイツチ「艦長代理中佐病氣歸國」シウモフ及驅逐艦「スメール」機關長ボロウスキーを乗せ青島より上海に入港せるを以て在上海本邦領事は直ちに青島へ向け電問したるに膠州灣總督より右は病氣の爲め歸國を許可せしものなりとの報あり

八月の講和經過

一日

海軍戦死總數 最近の調査に依れば昨三十七年二月開戦以來海軍の戦鬪死傷總數は三千六百七十三人にして此内即死及傷死者二千零八人、負傷者一千六百六十五人なりと

二日

講和顛末 露國全權委員ウイツテ紐育に到着し直に談判開始に關する宣言書を發表す

露帝大言 露國官報を以て露國皇帝の詔勅發表せられたり右詔勅に於て露帝は宣言して曰く「戦争は敵が滅滅せらるゝまで繼續するを要す露國は領土を割讓し又償金を支拂はざるべし露國は講和の成立せざる事を覺悟せり」と

三日

露艦發砲 慶尙號は要務を帯び雄基灣に入港せんとするや露國驅逐艦二隻より七十發の砲彈を受け船長其他二名即死せり

英國要求 英國はセントキルダ及アコイナの兩船撃沈に就き露國に對し充分なる報償を要求せり(七月四日、五日參看)

四日

地名改稱 擇捉島の歌棄を宇多須都と改稱す

五日

地名改稱 コルサコフを九春古丹と改稱す

講和顛末 日露兩全權は此日オイスターペーに於て米國大統領に謁見す大統領は又兩國全權を紹介せり

密航計畫 露領密航船二三隻青島に於て密航の計畫中なりと云ふ

七日 驅逐艦進水 横須賀鎮守府に於て驅逐艦彌生の進水式を行ふ

八日

「ワリヤーグ」 開戦當初撃破せるものにして其後引揚に従事せしが此日午後三時排水を
始め午後五時四十二分故障なく浮揚れり

勅語下賜 右に對し十一日同艦引揚委員長海軍少將新井有貫に優渥なる勅語を賜へ
り

捕獲確定 豫て英船「ローズリー」號(三十八年一月十二日參看)「オークレ」號(三十八年一月十八日參看)
は佐世保捕獲審檢所に於て英船「イスビー、アペ」號(三十八年二月廿七日參看)「ウエナス」號(三十八年三月四日參看)

「アフロダイト」號(三十八年三月六日參看)「ハーバートン」號(三十八年三月十八日參看)は佐世保審檢所に於て船舶載
貨共捕獲に撰定せるに之に對し各訴願人より高等捕獲審檢所に抗議を提出せるが此
日孰れも抗議を棄却せられ總て捕獲と確定せり

講和顛末 日露兩全權の一行を分乗せる米國軍艦「ボーツマス」に到着す

九日

豫備會見 我全權は露國全權の希望により打合の爲め豫備會見を開く談判用語は英
佛兩國語を併用することに決したり

智國提督 智利國水師提督「ジョウジモット」は日本視察の爲め隨員四名と共に横濱に

十日 來着せり

北遣艦隊 一支隊を東察加方面に他の一支隊を「ノック」海沿岸に派遣し右兩支隊は
現に各其目的の方面に於て作動中なり

同 裝砲艇隊は「グナイチャ湖」(樺太ノ東岸九谷古丹ノ東約二十海里)上より陸軍兵は東岸湖畔より協
同して攻撃を開始し約二時間の後敵は白旗を掲げて降服せり其人員百二十三我陸軍
は直に陣地を占領せり

講和顛末 日露兩國全權委員第一回正式會見を開く各隨員亦出席し委任狀を交換査
閲して同問題は難なく解決せられたり而して直に談判に入り我全權より要求條件を
文書にて提出す露國全權は之を研究したる後速に回答を提出することに決せり

十二日

「バルラダ」 巡洋艦「バルラダ」(六、七三噸)此日午前六時二十五分浮揚れり

帝國義勇艦隊 義金募集事業の進行すると同時に着手することとなり三菱、川崎、兩造船所
へ其設計及製造を依頼せしが構造は艦體を大にするよりは淺吃水にして快速且つ堅
牢ならしむる方針にて新造艦は速力を二十一海里とし載砲は十二吋(三吋)速射砲二門
四十七密速射砲六門合計八門と爲し敵國運送船捕獲用として最新の艦型たらしむる
筈なりと

講和顛末 露國全權より我要求の各條に對する回答を佛文にて提出し此日午後第一
條より逐條討議に移りたり

十三日

北遣艦隊 樺太東岸に作動せる驅逐艦は今朝ナイチロ電信局に合營せる敵の殘兵を攻撃し其全員十八名を捕虜とし武器電信機等を鹵獲せり

同 其一部は本日間官海峽ラザレバ角に敵の守備せるを認め砲撃せし後陸戦隊を上陸せしめ其通信所を破壊せり

米船拿捕 露國運送船「イストラリヤ」(號登簿一九三八)は麥粉、茶、罐詰等を搭載し桑港を發し堪察加沿岸に輸送中同半島ベトロバブフスク港内に於て我勘察加方面分遣艦隊の爲めに拿捕せらる

英船拿捕 英國帆船「アンチオーブ」(號登簿一三五九)は食鹽を搭載し桑港を發しニコライエフスクに向ひ航行中サガレン海灣に於てオコーツク方面に出動せる我分遣艦隊の爲めに拿捕せらる

講和顛末 日曜日講和の會議を爲さざるに決す

航路問題 韓國沿海及内河の航行に關し條約書(九ヶ條)に調印せり

十四日

戦利船改稱 「ニングタ」は生田丸と改稱せらる

北遣艦隊 オコツク海方面に出動せる分遣艦隊は亞楊港に於て舊式砲一門小銃二挺及彈藥若干を鹵獲せり

講和顛末 此日午前の會議にて我要求第一條を議了し午後第二條及第三條の討議を終りたり第一條は韓國に於ける日本の保護權第二條第三條は日露兩國の滿洲撤兵滿

洲還附なりと云ふ

叛艦暴行 黒海艦隊の謀反水兵に對する裁判は意外に軽く十五名は放免せられ五名は無期徒刑に處せられ其他は孰れも最も輕き刑に處せられたりとの報あり

十五日

海軍死傷 開戦以來此日に至る迄の我海軍死傷者總數は三、六八二名にして即死一八九一名、負傷者一、七九一(内傷死一一七)名なり但し北遣艦隊の死傷を算入せず

講和顛末 午前第五條の討議に三時間を費せしも決定に至らず遂に兩者議論の相違せし點を書き留め之を後廻はしとし午後第六條を議了したり第六條は遼東半島租借地讓受にして第五條は樺太の割讓なり

十六日

講和顛末 此日午前より午後に亘り第七條に就き討議をなし大體に於て決定引續き第八條を議了して散會したり第七條は哈爾濱以南の東清鐵道讓渡にして第八條は滿洲橫斷鐵道及哈爾濱以南東清鐵道を軍事に使用せざる件なりと

米船拿捕 露國運送船「モンタラ」(登簿一六九五)は石炭、砂糖、酒、毛皮等を搭載し桑港を發しコマンドルスキー列島ニコリスク港に於て堪察加方面分遣艦隊の爲めに拿捕せらる

十七日

講和顛末 第九條に就て討議せしも兩者の議一致を見るに至らざりしにより後廻しとするに決し午後第十條を討議せしも同じく決定に至らず第十一條の討議半途にし

て散會したり第九條は軍費拂戻第十條は遁竄艦艇の引渡第十一條は露國の極東に於ける海軍力制限なりと云ふ

北遣艦隊 オコツク海方面に出動せる分遣艦隊は同港に於て小銃五十八挺彈藥若干を鹵獲せり

露領事更迭 在上海露國總領事クレイメーン歸國することとなりボリアノウスキ其後を襲へり

十八日

講和顛末 第十一條に就き討議を繼續せしも決定に至らず第十二條に移り無事議了して廿二日迄休會するに決したり第十二條は沿海州に於ける漁業權允許なり

十九日

講和顛末 露國の兩全權はボーツマスと去てマクノリアに赴き同地よりローゼン男はオイスターベールに赴き米國大統領と會見したり

二十日

露國々々會 本日の露國官報を以て國會開設に關する露帝の詔勅を發表す

講和顛末 露國全權ローゼン男ボーツマスに歸來す米國大統領が露國全權に與へたる勸告其効を奏し一般の形勢徐々融解せんとするが如くに傳唱せらる

拿捕船改名 昨年二月六日拿捕せられたる「ムクデン」號は奉天丸と改稱せらる

廿一日(記事なし)

廿二日

「シールヌイ」 此日午後三時全く浮揚せり

戦利艦命名 戦利軍艦五隻左の如く命名せらる

戦闘艦 「ベレスウエート」は相模、同「ボルタワ」は丹後、

一等巡洋艦 「バヤーン」は阿蘇、二等巡洋艦「ワリアーグ」は宗谷、

二等巡洋艦 「バルラダ」は津輕、

講和顛末 露國の提出すべき議事録淨書間に合はざる爲め會見延期となる米國大統領特使を以て書を露國全權に送れり

廿三日

相模安着 戦利軍艦相模舊名「ベレスウエート」は自己の機關にて此日午後無事佐世保に到着せり

講和顛末 午前の會見に於て兩國全權が記録せし是迄の議事録を對照せしが相違の點ありしにより午後再び開會遂に前日迄に決議したる講和條項の覺書に調印したり

残り四ヶ條に關する談判は二十六日午後三時三十分迄延期することに決したり

廿四日

講和顛末 駐露米國大使コイアー露帝に謁見し三時間の會談を爲したり

露國製艦 露國海軍増勢資金取扱委員は此日彼得堡に於て會議を開き其收入現在金

二百四萬四千留を以て防禦に充つべき小艦數隻の建造に支出することに決定せりと

の報あり

廿五日

講和顛末 伯林電報に據れば獨帝は再び談判繼續の爲め運動せらるものゝ如しと

廿六日 有栖川宮 兩殿下大命を全うして御無事御着京あらせらる

講和顛末 午後の會見に於て露國よりは正式の回答を提出せざりしも到底戰費拂戻及樺太割讓に關する我修正案に同意する模様見え併し本國より未だ正式の回答達せざるにより前會の議事録に調印したるのみにて談判は廿八日まで休會せらる

廿七日

北遣艦隊 黑龍江方面分遣隊は敵が新に黑龍江口の南方バハアラン、ラザンバの二哨所に増兵せるを發見して之を砲撃破壊せり

海賊横行 八月初旬より仁川群山木浦の間に韓人の海賊船現らはれ帆船及沿岸住民に對し強奪をなし居れりとの報あり

降伏將校除籍 此日の倫敦電報に依ればネボガトフ少將麾下の降伏艦隊に乗組める各將校は總て露國海軍の軍籍を褫奪されたりと

廿八日

講和顛末 元老及各大臣首相邸に參集して緊要事件に就き會議を開き午後御前に於て重要な御前會議を開かる、ポーツマスに於ける講和談判は二十九日まで延期のこととなる

阿蘇安着 戰利軍艦阿蘇(舊名バヤーン)は本日午前十一時舞鶴に安着せり

大連禁入 本年一月公布の大連灣船舶出入禁止に關する陸海軍告示は廢止せられ更

に陸軍省告示(第十六號)を以て該規則を定められたり

廿九日

丹後安着 戰利軍艦丹後(舊名ボルターワ)本日午後自己の機關にて舞鶴に安着せり

汽船浮揚 旅順口沈没戰利汽船ゼーヤは此日午前に同ボレーヤは午後孰れも浮揚せりと云ふ兩船共に九一九噸にして最近の建造なり

講和顛末 午後三時日露全權會見の筈なりしが繰上げて午前九時會見、樺太分割問題、俘虜償金問題も全部解決す

九月の終局經過

一日

日本俘虜 此日の調査にて露國よりの通報によれば日本俘虜中氏名確實なりと認められたるものは非戰鬪員三百一名、戰鬪員五百七十七名合計八百八十八名にして其内海軍は將校二名、下士三名、水兵三名、大主計一名、筆記一名、技手二名なり

二日

戰利艦命名 戰利驅逐艦「シールヌイ」は文月フミツキと命名せらる

三日

露國情況 露國ワルソーに暴動起り死傷者あり

七日

捕獲船命名 捕獲船アリヨールは捕保丸と命名せられたり
露國情況 コーカサス地方に暴動起り暴徒は兵營衣糧庫を焼き官兵之れが鎮撫に當り双方の死傷者千名以上なりとの報あり

八日

投降提督 此日の倫敦電報に據れば露帝は詔勅を以て提督ネボガトフ及軍艦ニコライセニアウインアラキンの各艦長の本官を免じ尙同三艦乗組士官及アリヨール乗組士官は歸國を待ちて軍法會議に附せらる可しと云ふ

十一日

戰鬪法違反 此日の官報を以て樺太軍より大本營に着せる露軍戰鬪法違反第一ダムダム彈の使用第二赤十字旗及赤十字臂章の濫用第三制服を着せざる不規律兵第四囚徒の解放及其暴行の報告を發表せらる

露國情況 ニコライウイッテ太公は帝國參議院名譽議長にソルスキー伯は同院議長に任ぜられたり

獨船廻航 獨逸汽船ツレーブ號(五二六一噸)は露國俘虜搭載の爲めオデッサ港より廻航し來れり

獨船座礁 獨國巡洋艦シーアドラー號新嘉坡附近の暗礁に擱座せり

十三日

ロ提督收容 ロジエストヴェンスキー提督は佐官三名尉官七名準士官二名從卒十三名と共に似島より京都に護送され此日伏見俘虜收容所に收容せらる

俘虜總數 最近の調査に據れば現在俘虜總數は七萬一千二百九十八名にして内衛生部員百七十一名文官二十七名あり其他抑留中の小兒四名あり

十四日

陸軍休戰協定 日露兩軍の休戰條件協定委員は沙河子(昌圖停車場北方約二里)に於て其議定書(五條)に調印を了はれり

十五日

捕獲船命名 捕獲確定せる船舶に對し左の如く命名せり

影島丸 舊蘭船ウキルヘルミナ號

惠山丸 同填船ブルマ號

龍飛丸 同英船エム、エス、ダラー號

汐首丸 同英船ツイフキールド號

襟裳丸 同填船シヤム號

國後丸 同英船アボロ號

五島丸 同英船シルヴァイアナ號

陸軍恤兵金品 昨年二月開戰以來本年八月講和成立に至る迄の十九ヶ月間に於ける内外國民の恤兵金品總額は百六十四萬二千四百九十六圓七十錢八厘にして其内譯は恤兵

金額百二十一萬〇六百八十五圓五十二錢一厘にして寄贈品評價金額は四十三萬一千

八百一十一圓十八錢七厘なり

十六日

露國義勇艦隊 露國義勇艦隊會社は東亞航海を再興せんとし其汽船一隻は月曜日(十八日)を以て長崎浦蘆斯德に向けオデッサを解纜せんとす其西伯利亞へ積出さんとする貨物は同港に堆積せり

十八日

海軍休戰協定 島村海軍少將は東郷聯合艦隊司令長官を代表して艦隊の一部を率ゐる露國の代表者エツセン海軍少將の率ゆる艦隊に羅津浦港外に會し海上休戰地域を協定せり

島民救濟 右協定以外に於てエツセン少將より勘察加半島住民糧食窮乏せるを以て救濟する爲め人道に基き浦蘆よりペトロハヴロブスクに糧食搭載の運送船輸送の件を切願せるに對し時日切迫せる爲め島村海軍少將は特に通行免狀を與へて承諾せり

廿一日

俘虜艦長死亡 「ベレスウエート」艦長大佐ワシリイ、ボイスマンは此日松山捕虜收容所に於て死亡せり

廿二日

戰艦浮虜 戰艦「レトウキザン」(排水量一、二九〇二)此日浮揚れり

廿五日

露軍損害 昨年二月開戰以來露軍の損害に就て倫敦タイムズが計算したる所及露國側より出たる諸報告によりて綜合すれば戰闘員の總數は三十九萬二千〇七十六、擊沈若くは捕獲せられたる軍艦は六十四隻總噸數二十八萬九千七百七十八噸又捕獲され

たる商船は汽船四十三隻、帆船二隻、總噸數十萬七千九百二十九噸なり(内露國船は十五隻にして其他中立國商船なり)

五日

アリス嬢横濱着 アリス嬢此日午後三時二十分横濱に再來せり

ノイエル大將神戸着 ノイエル大將の率ふる隊際此日午後七時五十分神戸に入港せり

我全權の隨員横濱着 全權の隨員山座デニソン諸氏の一行は條約正文を携へて此日(夕コマ)號にて横濱に着せり

六日

露船アンガラの臨檢 露船「アンガラ」去四日午後一時三十分重藏岬附近に於て我軍艦之を臨檢したるに島村司令官の與へたる通航免狀を有したるを以て之を解放せり

七日

戰利艦浮揚 戰利水雷砲艦「ガイダマーク」浮揚れり

獨船拿捕 ニコライスクに航行中の獨船「カアルン」號對馬東水道に於て臨檢拿捕せらる

諸船拿捕 浦蘆に航行中なる諸船「アミンフライト」號對馬西水道附近に於て臨檢拿捕せらる

十日

獨船拿捕 浦蘆に航行中の獨船「エム、ストルウブ」號同「ハンス、ワグナル」號朝鮮海峡に於て拿捕せらる

十一日

英艦隊横濱入港 英國艦隊横濱に入る歓迎盛なり

十三日

米船拿捕 浦鹽に航行中の米船「センテニアル」號宗谷海峡に於て拿捕せらる

大將謁見 ノーエル大將以下午前十一時三十分参内謁見終て御陪食仰付けられたり

十五日

聯合艦隊伊勢灣に入る 東郷大將聯合艦隊を率ゐて伊勢灣に入る

十六日

海陸軍に勅語 海陸軍に優渥なる勅語を賜る

和約公布 日露講和條約公布せらる

外相歸朝 小村男及金子男歸朝す長崎要塞地帯、佐世保要塞地帯及對馬等の地域に於ける戒嚴は此日勅令第二百十九號を以て之を解止せられたり

東郷平八郎全集 第三卷 終

昭和五年九月十五日印刷

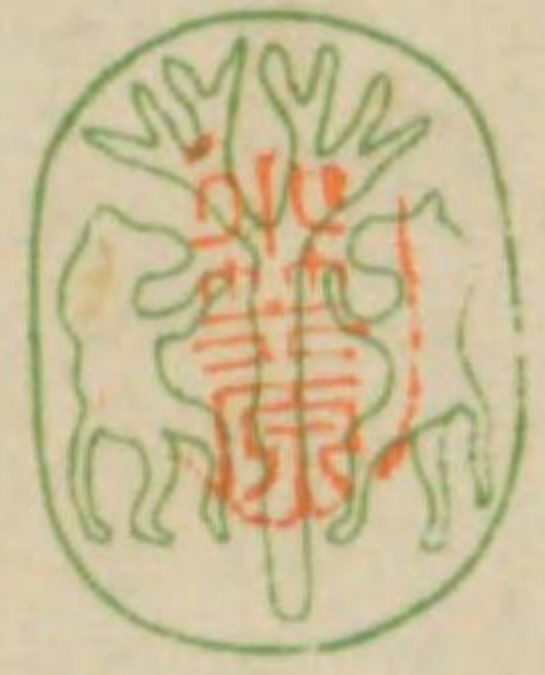
昭和五年九月二十日發行

東郷平八郎全集 第三卷

著者 小笠原長生

發行者 下中彌三郎

印刷者 濤川 薫



(品 賣 非)

發行所

東京市麹町區下六番町一〇
振替東京二九六三九番
株式會社

平 凡 社

電話九段 三三一
三四六
四七六
七五四
番番番

刷印社會式株刷印同共

本 製 協 三

KIZL-70

